

2019原発のない福島を！県民大集会

東京電力福島第一原子力発電所の事故から、8年が経過しました。関連死者数は昨年9月末現在で2,267人にのぼり、依然として増え続けています。ふるさとを奪われ、避難している人は今年2月現在、福島県内外に42,000人もいます。

3月16日(土)、「2019原発のない福島を！県民大集会」が福島県教育会館で、全国から約1,700人（岩手県団：平環センター16人、うち高教組5人）の参加で開催されました。会場は満席で、座席以外の立ち見や、モニター画面での別会場も満席になるほどでした。

実行委員長の角田政志福島県教組委員長、特別ゲストの香山リカさんからのあいさつのあと、県民（被災者、教育関係者、若者、消費者団体）からの訴えがありました。若者からは福島の高校生平和大使高橋花音さんからの訴えがありました。

福島は原発事故の影響が大きく、避難指示の解除がすすんでも帰還の足取りは重く、農林水産業が受けた打撃も大きいものがあります。岩手の被害とは違った現状を聞くことができました。

福島第一原発の現場では廃炉に向けた作業が懸命に行われているものの汚染水もたまる一方です。脱原発の運動をすすめていかなければなりません。

最後に集会参加者全員で、福島第二原発を直ちに廃炉にすることを訴えました。



集会の様子



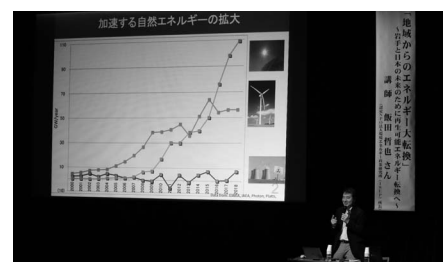
岩手からの参加者

さようなら原発岩手県集会2019

3月9日(土)岩手県民会館中ホールにおいて、「さようなら原発岩手県集会2019」が開催され、約360人（高教組15人）が参加しました。集会では、認定NPO法人環境エネルギー政策研究所の飯田哲也所長が、「地域からのエネルギー転換」～岩手と日本の未来のために再生可能エネルギー転換へ～と題し、基調講演を行いました。飯田所長は、再生可能エネルギーは「1年前は考古学」と言われるほど進歩が速く、太陽光発電、風量発電等は10年ごとに電力供給のシェアが約10倍ずつ伸び続けていることの説明がありました。

宮城県の女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現する会の多々良哲代表からは「県民投票実現に向けたとりくみ報告」が行われました。

集会後はアピール行進を行い、市民に原発の廃炉を訴えました。



基調講演



アピール行進